

第2回 小牧市食育推進会議 議事録

日 時	令和5年3月24日(金) 10時00分～11時00分
場 所	小牧市役所本庁舎 4階 404会議室
出席者	<p>【委員】(名簿順)</p> <p>倉橋 伸子 名古屋経済大学 人間生活科学部 教授 夏目 有紀枝 名古屋経済大学 人間生活科学部 准教授 石原 沙彩 尾張中央農業協同組合 佐藤 英治 尾張農林水産事務所 主幹 松浦 康子 小牧市食生活改善協議会 会長 倉知 日出美 こまき環境市民会議 石田 昭代 小牧市生活改善実行グループ連絡研究会 会長 藤本 佳代 一般公募</p> <p>【事務局】</p> <p>入江 慎介 健康生きがい支え合い推進部 部長 江口 幸全 健康生きがい支え合い推進部 次長 永井 政栄 健康生きがい支え合い推進部 健康生きがい推進課長 岩下 貴洋 健康生きがい支え合い推進部 健康生きがい推進課健康政策係長 松浦 裕子 健康生きがい支え合い推進部 健康生きがい推進課健康政策係主査 林 泰博 教育委員会事務局 学校給食課長 長谷川 裕一 地域活性化営業部 農政課農業振興係主査 赤塚 真規子 健康生きがい支え合い推進部 保健センター 管理栄養士</p> <p>【欠席者】</p> <p>三輪 雅一、竹内 友康、森川 美千代、熊澤 嘉乃、齊藤 公彦</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>(資料1) 令和4年度食育に関する取り組み一覧</p> <p>(資料2) 小牧市健康づくり推進審議会及び小牧市健康づくり推進プランについて</p>
<p>1. 開会</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 令和4年度食育に関する取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料1を用いて各委員より説明。 質疑、主な意見は以下のとおり <p>石田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校で自分たちのできることを児童生徒に伝えていきたいと思っている。 尾張中央農業協同組合では一部の小学校で農業体験を行っているとの報告があった。 私たちとしては、全学校をまわることは難しいが、自分たちのグループが活動している南部地区を中心にまわることはできるかもしれない。どのようにしたらよいか。 <p>倉橋会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会の管轄かと思うので、事務局から何かのタイミングで教育委員会へ伝えることは可能か。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 後ほど、内容を確認し、担当部局に伝えさせていただく。 	

倉橋会長)

- ・ コロナ禍で難しい面もあると思うが、折り合いをつけてやれるところから進めていただき、うまく活動できるとよい。

佐藤委員)

- ・ 食育はライフステージに合わせて切れ目なく行うことが重要である。
- ・ 小中学校は栄養教諭の先生を中心に頑張っており取り組んでいる。しかし、高校生や働きざかりの青年期、壮年期は取り組み自体が少ないし、そうした対象の方を集めて、何か行うことも難しいと思う。
- ・ 先程の説明で、市では「ヤング健診結果説明会」などの機会を捉え、働きざかりの方に健康を見つめ直すとともに、食育の大切さについても合わせて働きかけを実施しているとのことであった。例えば、「食事バランスガイド」を配布するなど、食育の普及啓発につながるので、取り組んでみてはどうか。

倉橋会長)

- ・ 小中学生は、学校で計画的に食育が進められているが、高校生以上は食に関していろいろ知る機会がないことを踏まえた提案である。

事務局)

- ・ 現状、ヤング健診は300～400名の受診があり、1人15分程度で保健師、歯科衛生士が説明を行っているが、生活習慣病のリスクがある方を対象として栄養指導も行っている。
- ・ 食生活を改善するような資料を全員に配布しているが、来年度からは「食事バランスガイド」を含めた資料を配布する予定である。
- ・ 若い方の食育に関する働きかけが難しいことは市の課題として認識している。
- ・ 藤島と池之内で行っている市民菜園は、3割から4割が20代～50代の青壮年期で占められている。市民菜園を始めた当初は高齢者ばかりであったが、最近は若い方の利用も増えており、農業体験に関心がある方が多いことが分かるので、こういったところを切り口とするなど委員の皆さまのお力をお借りしながら検討していきたい。

倉橋会長)

- ・ 高校生、大学生など比較的若い方は健康な方が多く、自分の健康を振り返る機会がない。
- ・ 最初から生活習慣病を学ぶのではなく、菜園をやってみるとか何かイベントなどを通じて、ちょっとしたことから楽しみながら健康を学ぶことができる仕掛けがあるとよいと思う。
- ・ 自分自身、スマホで健康管理を行っている。スマホで簡単に記入できたり、データを見ることができる。こうしたものをうまく活用して、自分の健康、食生活を少し振り返ってみることができるとよいと思う。

夏目副会長)

- ・ 管理栄養学科で学生を指導しているが、学生が生活習慣病予防をテーマにした「健康通信」(第1号～第3号)というリーフレットを作成した。
- ・ 学生自身が学ぶことはもちろん、学生も地域の方に健康のこと、自分たちが学んでいることを知っていただくために、学生たちが主体となって作成したものである。

- ・ コロナ禍で難しいかもしれないが、このリーフレットを活用し、いろいろなところへ情報発信していきたい。名古屋経済大学は犬山市にあるため、犬山市の商工会議所を介して配布をしてもらっている。イベントなどで学生自ら配布することにより、若い世代も健康を広めていく大切さを学ぶことができる。
- ・ また、高齢者の方も孫のような感覚で接してくださるので、健康づくりに関心を持つきっかけづくりに生かせると思う。地域の皆様へ健康づくりの情報発信をしていきたい。
- ・ 最近、研究の中でよく言われていることとして、出不精の方々にはいかに動いていただくか、情報や行動変容が必要な可能性のある方に、いかに情報を伝えるのが大切だと言われている。
- ・ きっかけとして、そういう方が家族と気軽にいけるイベントやちょっとした集まりなどに、情報を提供していくことが大切である。
- ・ 学生もこういったテーマに興味を持っている生徒が多く、大学も若い力を連れて外に出ることが大切だと考える。
- ・ 小牧市と地域で活動されているみなさんとどこかでつながっていき、健康づくりに貢献できるとよいと思っている。

(2) 小牧市健康づくり推進審議会及び小牧市健康づくり推進プランについて

- ・ 事務局より資料2を用いて説明。

事務局)

- ・ これまで「小牧市食育推進会議」で、「小牧市食育推進計画」の推進に向けた検討や食育推進事業に関する事項の協議をしてきた。
- ・ 一方で「小牧市民健康づくり推進協議会」で、本市の健康増進計画である「健康日本21こまき計画 健康こまきいきいきプラン」の推進に向けた検討や健康増進事業に関する事項の協議をしてきた。
- ・ 食育と健康づくりに関するこの二つの計画は深く関連があるにもかかわらず、それぞれ別の会議体で所管しており、その連携も図れていない。
- ・ こうしたことを踏まえ、両計画を整理統合し、現在、新たな計画である「小牧市健康づくり推進プラン」の策定に着手したところである。
- ・ 2月に市民アンケートを行い、現在集計中であるが、今年度と来年度にかけて、「小牧市健康づくり推進プラン」を策定していく。
- ・ また、計画の策定に合わせ、会議体についても整理・統合する必要があることから、新たに「小牧市健康づくり推進審議会」を設置する予定である。そのため「小牧市食育推進会議」については、本日の会議をもって終了となるが、審議会のもとに、食育推進会議を継承した「食育専門部会」を設置する予定であり、改めて、就任の依頼をさせていただくので、協力をお願いしたい。

⇒ 委員からの質問、意見なし

3. その他

4. 閉会